

植 物 図

フランスに居を移し、花の命をより身近に、鮮明に感じたことで起きた迷いや変化。その先に生まれた「植物図」は作家の心に深く根付くある作品が根底にある。江戸時代末期から明治中期に活躍し、時代の橋渡し役ともなった漆工家・絵師の柴田是真の「千種之間天井綴織下図」。大きな円の中に描かれる植物たちのその生き生きとした表情を心の中でたどりつつ、絵画でも彫刻でもない、和紙だからこそ出来る、自身にしか描けない植物図を描こうと制作を始める。

和紙を 纏う花

花の時を預る媒体としての和紙。それは紙面という平面上だけには収まらず、花をより自由にしてくれるのではないか。命を頂くこと、花とは何か？を問う。
_ 菊 / _____

間 - は ざ ま

作家自身の転換期を花と重ねる。昨日と今日の間。過去と未来の間。常に私たちは何かのはざまに立っている。

_ 黄花秋桜 / 彼岸花 / 百日紅 / 葛 / 露草
/ 竹炭 (BUNKAI PROJECT)

刻 間

- と き は ゆ き

ときとときの間には何があるのか。1時と2時ではなく、1秒と2秒ではなく、瞬と瞬。その間に意識を向けてみる。いま、目の前にある一瞬の美しさは、それを見出したあなただけのものだから。植物の一日を描く作品の中にそのはざまを感じる事ができたなら、私たちは共生共存を忘れずにいられるのかもしれない。時間や人の決めたルールの矛盾と自分と向き合う間を感じてもらいたい。

_ 黄花秋桜 / 百日紅 / 薔薇 / 葛 / 菫 / _____
デルフィニウム /

い
さ
ぎ
だ
ら
し
い
お
手
に
と
っ
て
ご
覧
く
だ
さ
い

W i t h

誰かと「共に創ること」を通し、花和紙の可能性を探る。

1. 土 _with Ryo Fukada
2. 風 _with Taichi Ichikawa
3. 光 _with Ryo Fukada
4. 雨 _with Taichi Ichikawa

W i t h

誰かと「共に創ること」を通し、花和紙の可能性を探る。

Exhibiting Works_with students
(Proposal for a method of exhibiting works by students of a design college)

_ i s i n v i s i b l e

” 見えない ” とは何か？

美しさとは、目に見えるていることを言うのではなくその奥に秘めている秘密に宿るもの。一輪の花と向き合うことで見出した美しい世界の探求。

花

と

刻

本展示は作家自身が花と向き合う過程で制作を重ねた作品群を中心に構成されています。

フランスに滞在し、これまで以上に「花の命を預ること」について深く見つめ直した時間。花との対話は、時に深く暗闇に潜り、罪を背負うこともあれば、時に少女の頃のような一切の濁りのない幸福感を与えてくれます。

「花と刻」という展示名は、花の命や時間を預かり刻み込んだ花和紙作品の可能性を探る為につけたものです。

花の命を預かってまで、なぜ、表現をするのか？
_ この問いの答えに辿り着いた時、花は私をより自由にしてくれました。

制作には日本国内の廃棄予定だった花を中心に、一部フランスの豊かな大地で生まれた植物が使われています。作品の元に来てくれた花、そして私をここに連れてきてくれた全ての花に感謝いたします。